

公益社団法人 日本水産学会
平成 29 年度第 5 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 29 年 9 月 21 日 (木) 9 時 00 分 ~ 11 時 02 分
- 2 開催された場所 国立大学法人東京大学弥生講堂アネックス (東京都文京区弥生 1-1-1)
- 3 理事総数及び定足数

総数 20 名, 定足数 11 名

- 4 出席理事総数 18 名

(本人出席) 秋山秀樹, 荒井克俊, 荒井修亮, 菅野詔弘, 木島明博, 黒倉 寿, 古丸 明, 佐藤秀一, 重 義行, 青海 忠久, 塚本勝巳, 中田英昭, 萩原篤志, 安井 肇, 山下 洋, 良永知義, 和田時夫

(途中出席) 山本民次 (第 12 号議案「学会誌の出版費用の軽減に向けた Fisheries Science 及び日本水産学会誌の発行に関する方針」の審議中の 9 時 32 分に着席)

(監事出席) 北田修一

(幹事出席) 岩田繁英, 小林武志, 近藤秀裕, 芳賀 穰

- 5 議 案

- | | |
|------|--|
| 決議事項 | 第 1 号議案 「日本水産学会創立 85 周年記念式典における感謝状の贈呈」の件 |
| | 第 2 号議案 「水産学若手の会の常設化に伴う規程の一部改正」の件 |
| | 第 3 号議案 「水産学若手の会委員会運営規程の制定」の件 |
| | 第 4 号議案 「水産利用懇話会委員会委員の交代」の件 |
| | 第 5 号議案 「水産増産懇話会委員会委員の交代」の件 |
| | 第 6 号議案 「平成 30 年度春季大会運営委託業者」の件 |
| | 第 7 号議案 「平成 30 年度春季大会募金目論見書」の件 |
| | 第 8 号議案 「平成 30 年度秋季大会」の件 |
| | 第 9 号議案 「会員管理システム保守委託業者」の件 |
| | 第 10 号議案 「平成 29 年度日本農学進歩賞受賞候補者の推薦」の件 |
| | 第 11 号議案 「第 39 回 (平成 29 年度) 沖縄研究奨励賞受賞候補者の推薦」の件 |
| | 第 12 号議案 「学会誌の出版費用の軽減に向けた Fisheries Science 及び日本水産学会誌の発行に関する方針」の件 |
| | 第 13 号議案 「International Symposium "Understanding changes in transitional areas of the Pacific" の協賛金」の件 |
| | 第 14 号議案 「入会承認」の件 |

報告事項 第 4 回理事会以降の職務執行の状況

その他

- 6 議事の経過及びその結果

- (1) 定足数の確認等

塚本会長が定足数の充足を確認し, 続いて本会議の議事進行について説明があった。

- (2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき, 塚本会長が議長となり, 本会議の成立を宣言し, 議案の審議に移った。

(決議事項)

第 1 号議案 「日本水産学会創立 85 周年記念式典における感謝状の贈呈」の件

良永総務担当理事より、創立 85 周年記念事業の一環として、名誉会員、70 歳以上かつ 50 年以上の正会員歴を持つ者（平成 29 年度末）、賛助会員ならびにその他理事会が適当と認める者に感謝状を贈呈する件について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。今後、必要に応じて贈呈者を追加する場合は、理事会で改めて審議することも出席理事全員一致で可決した。

第 2 号議案「水産学若手の会の常設化に伴う規程の一部改正」の件（別紙 1）

塚本会長より、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第 3 号議案「水産学若手の会委員会運営規程の制定」の件（別紙 2）

塚本会長より、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第 4 号議案「水産利用懇話会委員会委員の交代」の件

良永総務担当理事より、水産利用懇話会委員会委員交代について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

[選出] 前川貴浩 [辞退] 兼田典幸

第 5 号議案「水産増産懇話会委員会委員の交代」の件

良永総務担当理事より、水産増産懇話会委員会委員交代について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

[選出] 内田和男 [辞退] 大越徹夫

[選出] 長谷川敦子 [辞退] 小野 淳

第 6 号議案「平成 30 年度春季大会運営委託業者」の件

菅野関東支部担当理事より、平成 30 年度春季大会運営委託業者について、2 社の見積もりの説明があった。審議の結果、トーヨー企画（株）に平成 30 年度春季大会の運営を委託することを出席理事全員一致で可決した。

第 7 号議案「平成 30 年度春季大会募金目論見書」の件

菅野関東支部担当理事より、平成 30 年度春季大会募金目論見書の原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第 8 号議案「平成 30 年度秋季大会」の件

塚本会長より、平成 30 年度秋季大会について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。なお、運営委託業者については、実行委員会が数社の見積もりをとって理事会へ提案する。

日程 平成 30 年 9 月 15 日～18 日または 9 月 14 日～17 日

場所 広島大学生物生産学部

担当機関 福山大学及び水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所

大会委員長 南 卓志（福山大学）

第 9 号議案「会員管理システム保守委託業者」の件

良永総務担当理事より、会員管理システム保守委託業者について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第 10 号議案「平成 29 年度日本農学進歩賞受賞候補者の推薦」の件

荒井（克）学会賞担当理事より、平成 29 年度日本農学進歩賞受賞候補者の推薦について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 11 号議案「第 39 回（平成 29 年度）沖縄研究奨励賞受賞候補者の推薦」の件

荒井（克）学会賞担当理事より、第 39 回（平成 29 年度）沖縄研究奨励賞受賞候補者の推薦について原案の

説明があった。審議の結果，出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第12号議案「学会誌の出版費軽減に向けた Fisheries Science 及び日本水産学会誌の発行に関する方針」の件

良永総務担当理事から方針の原案について説明があった。事前に寄せられた方針に対する理事の意見および企画広報委員会委員の意見を紹介した。

この件について以下の質疑応答があった。

和田理事「ニュースレターの出版費用を海洋学会に訊ねるか？」

良永理事「お願いしたい」。

和田理事「著者負担金は下げられないということか？日本水産学会誌の E ジャーナル化のメリットは会費の引き上げをしなくてもよいということか？」

良永理事「科研費がなくなっても会費を上げずに学会活動を維持できることがメリットである。」

和田理事「そのメリットを意識した説明を会員向けにしたほうが良い。」

萩原理事「発行部数，発行回数及び印刷頁数を減らすシミュレーションはあるか？」

良永理事「シミュレーションはある。印刷頁数を減らすことはないが，発行部数年4回に減らすと発送費が6分の4になるので，さらに減額できる見込みである。再度見積もりを依頼すれば12月に間に合う。」

黒倉理事「世の中のトレンドは？投稿数を増やさないと質の維持は困難である。投稿料が増える方向になる。質の維持の観点から長期的な計画が必要では？」

塚本会長「和文誌と英文誌及び情報のみのニュースレターで，企画記事などを考慮しなくてもよいのでは？」

良永理事「ホームページを充実させれば，情報の配信はできる。」

黒倉理事「会長のいわれるようにシンプルに考えるのが良い。」

和田理事「E ジャーナル化すれば，掲載が早いなどのメリットはないのか？」

良永理事「現在もオンラインファーストでFSは公開しており，日水誌も公開されている。」

良永理事「掲載料ゼロに向かっていくべきではないか？他の事業を減らしてでも実施するのが研究者のメリットではないか？掲載料をゼロにすることが研究者のアクティビティーがあがるのではないか？そのほうが水産学会のプレゼンスが上がるのではないか？」

山下理事「委員会を減らすのが，出費を減らすことにつながる。事務局からは毎年検討を求められている」

塚本会長「将来的に掲載料を無料にする方向でよいのか」。

審議の結果，出席理事全員一致で原案のとおり可決した。また，会員から意見集約をするために日本水産学会創立85周年記念国際シンポジウムで受付にブースを設置すること，会員へメールを配信することを出席理事全員一致で可決した。

第13号議案「International Symposium "Understanding changes in transitional areas of the Pacific"の協賛金」の件

和田担当理事より本シンポジウムに対する協賛金について原案の説明があった。審議の結果，出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第14号議案「入会承認」の件

審議の結果，出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

(報告事項)

第4回理事会以降の職務執行の状況

・会長

塚本会長より次の報告があった。

1) イギリス諸島水産学会の50周年記念シンポジウムに参加。イギリス諸島水産学会の運営は7割の予算が会誌の収入である。

2) 8月28 - 26日にフロリダ州タンパ市で行われたアメリカ水産学会大会に参加して、プレナリー講演を実施した。大会は、各セッションに分かれて実施され参加者がやや少なかった。

3) 佐藤理事と同道し、WCFSの会議にも出席した。

佐藤理事より次の補足説明があった。

1) 第8回WFCが10月中旬にアデレードで開催予定である。WFCの実行組織がAFSではなく、アメリカ国内のNPOとして発足予定である。

・庶務関係

良永担当理事より、次の報告があった。

1) 資格喪失者（会費未納）の会費納入による退会への変更について

山本雄三（正会員，平成28年度資格喪失）

2) 協賛について

共催，協賛，後援の取り扱い申し合わせ3)を適用した。

第15回高付加価値食品開発のためのフォーラム

主催 日本食品・機械研究会

後援 日本栄養・食糧学会 他15団体

日程 平成29年9月15日・16日

場所 帝人アカデミー富士（静岡県裾野市）

希望 協賛

負担金 なし

第17回基準油脂分析試験法セミナー

主催 日本油化学会

後援 日本農芸化学会 他4学協会

日程 平成29年10月19日・20日

場所 油脂工業会館（東京都中央区）

希望 協賛

負担金 なし

第60回中海海底工学フォーラム

主催 中海海底工学フォーラム運営委員会

共催 東京大学生産技術研究所（生研研究集会）

協賛 日本船舶工学会 他5団体

日程 平成29年10月20日

場所 東京大学大気海洋研究所（千葉県柏市）

希望 協賛

負担金 なし

第29回研究成果発表会

主催 海洋調査技術学会

後援 中海海底工学フォーラム 他19団体

日程 平成29年10月20日

場所 東京大学大気海洋研究所(千葉県柏市)

希望 協賛

負担金 なし

・企画広報関係

佐藤担当理事より次の報告があった。

- 1) 第4回委員会を7月11日に、第5回委員会を9月4日に開催した。
- 2) 日水誌のEジャーナル化を検討した。冊子体を求める声もあった。ニュースレターの方針が未定なので検討できない。理事会で決定後に検討したい。

・財務関係

萩原担当理事 特になし。

・編集関係

中田担当理事より次の報告があった。

- 1) 第2回委員会を開催した。
- 2) FSの表紙デザインを検討して、候補を絞り込んだ。シュプリンガーに改定を依頼して、9月中に決定する。
- 3) 春季大会で投稿セミナーを実施予定。担当ワーキングで開催案内を検討している。
- 4) 学協会コンソーシアムに加入して査読システムを導入することに関して情報収集を行い、その利点や欠点を検討している。

・学会賞関係

荒井(克)担当理事より次の報告があった。

- 1) メール会議で日本農学進歩賞及び沖縄研究奨励賞の受賞候補者推薦について審議した。
- 2) 9月25日に委員会を実施予定である。

・シンポジウム関係

木島担当理事より次の報告があった。

- 1) 8月1日に委員会を開催した。来年度の企画案2件を検討している。
- 2) シンポジウムの開催案情報の一元化を議論しており、規約を変えずに実施できるかを検討している。
- 3) 委員会を開催予定である。

・出版関係

木島担当理事より次の報告があった。

- 1) 委員会を7月10日に海洋大で開催した。また、メール会議も実施した。
- 2) 水産学シリーズの後継を電子出版の方向で検討している。電子出版の委託企業などは未定である。水産学シリーズの外国語版出版について検討している。成山堂から出版されているベルソープックスの韓国語版のオファーがある。

この件について以下の質疑応答があった。

山下理事「水産学シリーズは終了するのか。」

木島理事「水産学シリーズの終了はすでに決定済みで後継のものを電子版で検討している。」

山下理事「後継のものはシンポジウムの内容か。」

木島理事「シンポジウムも含めて検討している。」

塚本会長「水産学シリーズの終了は経済的な理由か。」

木島理事「その通りである。電子出版なら出版可能と聞いている。」

・水産技術誌監修関係

秋山担当理事より第 10 巻を編集校閲中であり，10 月には完成予定であるとの報告があった。

・国際交流関係

佐藤担当理事より日本水産学会創立 85 周年記念国際シンポジウムにアメリカ ,英国 ,中国 ,韓国 ,WCFS 代表が参加予定であり，シンポジウムで各国代表から講演をいただくとの報告があった。

・水産教育関係

荒井（克）担当理事 特になし。

・水産政策関係

黒倉担当理事より水産政策委員会にてアメリカから有識者とのワークショップを実施するとの報告があった。

・漁業・資源管理関係

荒井（修）担当理事より，漁業懇話会では秋の講演会を開催せず，日本水産学会創立 85 周年記念国際シンポジウムの会期中には委員会のみ実施予定であるとの報告があった。

・水産利用関係

菅野担当理事より，次の報告があった。

- 1) 7 月 3 日に水産利用懇話会委員会を開催した。
- 2) 7 月 3 日に水産利用懇話会講演会も開催し，参加者は 57 名であった。

・水産増殖関係

木島担当理事より次の報告があった。

- 1) 水産増殖懇話会委員会を 9 月 21 日に開催する。
- 2) 水産増殖懇話会第 2 回講演会を 9 月 21 日に東京海洋大学で開催する。講演会の内容は，増養殖研究の未来像である。
- 3) 次の講演会「内水面漁場の課題 内水面漁場の再生にむけて 」を開催予定である。

・水圏環境関係

山下担当理事より ,12 月に沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウムを神戸市または岡山市にて開催予定であるとの報告があった。

・男女共同参画関係

良永担当理事より次の報告があった。

- 1) 科学技術系の大型アンケートを実施した。今後，日本水産学会のデータ集計を実施する。
- 2) 10 月 14 日に開催される第 15 回男女共同参画学協会連絡会に参加予定。

・社会連携関係

安井担当理事より JST などの社会連携企画との連携を模索中であるとの報告があった。

・将来計画関係

- 1) 和田担当理事より，アンケート調査を踏まえたシンポジウムを計画しているとの報告があった。

ここで，和田理事より理事会主催シンポジウムを平成 30 年度春季大会において開催する件について審議したいとの動議が出され，本動議の審議を行うことについて出席理事全員一致で可決した。審議の結果，理事会主催シンポジウムを平成 30 年度春季大会で開催することを出席理事全員一致で可決した。

・北海道支部，地域連携関係

安井担当理事より12月9日に北海道大学にて北海道支部大会を予定であるとの報告があった。

・東北支部，地域連携関係

秋山担当理事より次の報告があった。

1) 10月28・29日に福島大学環境放射能研究所にて東北支部大会を開催する予定である。1日目はミニシンポジウム「津波と原発事故による水産業への影響と復興への取り組み」を2日目は一般の研究発表を行う。

・関東支部，地域連携関係

菅野担当理事より次の報告があった。

1) 7月13日に幹事会を開催した。平成31年度春季大会の運営機関は海洋大Bが担当する予定である。
2) 日本水産学会創立85周年記念国際シンポジウムに会場係を派遣する。

・中部支部，地域連携関係

古丸担当理事より，次の報告があった。

1) 12月2日に支部大会を開催し，一般公演，幹事会，総会，シンポジウム，ミニシンポジウムを実施する。
2) 日本水産学会誌のEジャーナル化等について支部内で意見集約中である。

・近畿支部，地域連携関係

荒井(修)担当理事より12月10日に後期例会を開催し，特別講演，一般公演。高校生のポスター発表を実施予定であるとの報告があった。

・中国・四国支部，地域連携関係

山本担当理事より12月2・3日に支部大会及び総会を開催し，シンポジウムと支部幹事会を実施予定であるとの報告があった。

・九州支部，地域連携関係

中田担当理事より次の報告があった。

1) 12月2・3日に長崎大学水産学部にて支部大会及び総会を開催し，例会シンポジウム「海洋生物の生理生態に及ぼす環境変動の影響～今，東シナ海で起きていること～」等を実施する予定である。
2) 7月29日に水産海洋研究若手交流会を実施した。60名の参加者があり，若手の会の会員も参加した。

・英文書籍監修委員会（特別委員会）

佐藤担当理事 特になし

・東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）

山下担当理事 特になし

・水産学若手の会（特別委員会）

塚本会長より日本水産学会創立85周年記念国際シンポジウムでイブニングセッションを実施予定であるとの報告があった。

・日本水産学会創立85周年記念事業委員会（特別委員会）

青海担当理事より次の報告があった。

1) 9月21日午後から日本水産学会創立85周年記念式典があり，9月22日からシンポジウムを開催する。
2) 8月19日と9月9日に委員会を開催した。日本水産学会85年史の刊行とデジタル版水産学用語辞典の準備中で順調に進行中である。収支は，寄付金が700万円，学会から1500万円，企業展示，協賛広告を合わせて135万円で，支出は500万あまりで，1200万円程度黒字となる予定である。

佐藤理事より次の補足説明があった。

- 1) 日本水産学会創立 85 周年記念国際シンポジウムには, 30 の国から 825 名の参加登録があった。296 名が外国からの参加者である。学生が 292 名である。発表は口頭 436 件, ポスター 396 件である。
- 2) 日本水産学会創立 85 周年記念事業が黒字の場合は, 創立 100 周年の記念事業費への積み立てる見込みである。

この件について以下の質疑応答があった。

良永理事「創立 100 周年の記念事業費について, 来年度の予算編成に入れなくてはならない。」

青海理事「了解した。」

・財務検討委員会(特別委員会)

萩原担当理事より次の報告があった。

- 1) 日本水産学会誌 E ジャーナル化を含めた学会誌の刊行費用を見直すワーキンググループに参加した。
- 2) 事務局のモノクロレーザープリンターの購入を承認した。

・水産・海洋科学研究連絡協議会関係

塚本会長 特になし。

その他確認事項

(1) 次回の度理事会について

良永総務担当理事より平成 29 年度第 6 回理事会を 12 月 9 日(土) 13:00 から東京海洋大学品川キャンパスにて開催する予定であるとの説明があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので, 11 時 02 分, 議長は閉会を宣言し, 解散した。

以上, この議事録が正確であることを証するため, 出席した議長(代表理事)及び監事は記名押印する。

平成 29 年 9 月 21 日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長(代表理事)

監事